

# 研究成果発信支援の視点から見るライティング・センターの役割

## How Can Researchers Benefit from A Writing Center

### 早稲田大学

#### ライティング・センター (2004年)

日本のライティング・センターの先駆とも言える。**国語教育、英語教育、日本語教育を融合**した「世界に類を見ない形のライティング・センター」。

- ▶ オンライン・データベースなどの資源を活用、自宅または自習中に使えるリソースの提案。
- ▶ **チューターの雇用、訓練**がシステム化され、日本においては大学ライティング・センターのモデルとなっている。
- ▶ **多彩な広報活動**: ウェブサイト、入学式オリエンテーションでの紹介、教授会での紹介、クラス見学、チラシ、リーフレット、各学部の掲示板への掲示、学内広報誌への寄稿、ワークショップ等。



充実した日英語版のウェブサイト

### 関西大学 x 津田塾大学

#### ライティング/キャリア支援 (2012年)

2012年、両大学の共同プログラム「く考え、表現し、発信する力」を培うライティング/キャリア支援」が文科省大学間連携共同教育推進事業に採択され、以来、両大学はイベントの同時中継、FD/TA研修、ソフトの開発等において**連携**をしている。

- ▶ 「**eポートフォリオ**」というライティング支援用の電子システムを開発中。より効率的、効果的なライティング支援が期待できる。
- ▶ 学術文章のみならず、「**キャリア支援**」をも重視しているため、相談内容はレポートからレジュメ等まで幅広い。
- ▶ 両大学とも、講演会、シンポジウム、ワンポイント講座、ライティング・カフェ等を**豊富なイベント**を開催している。

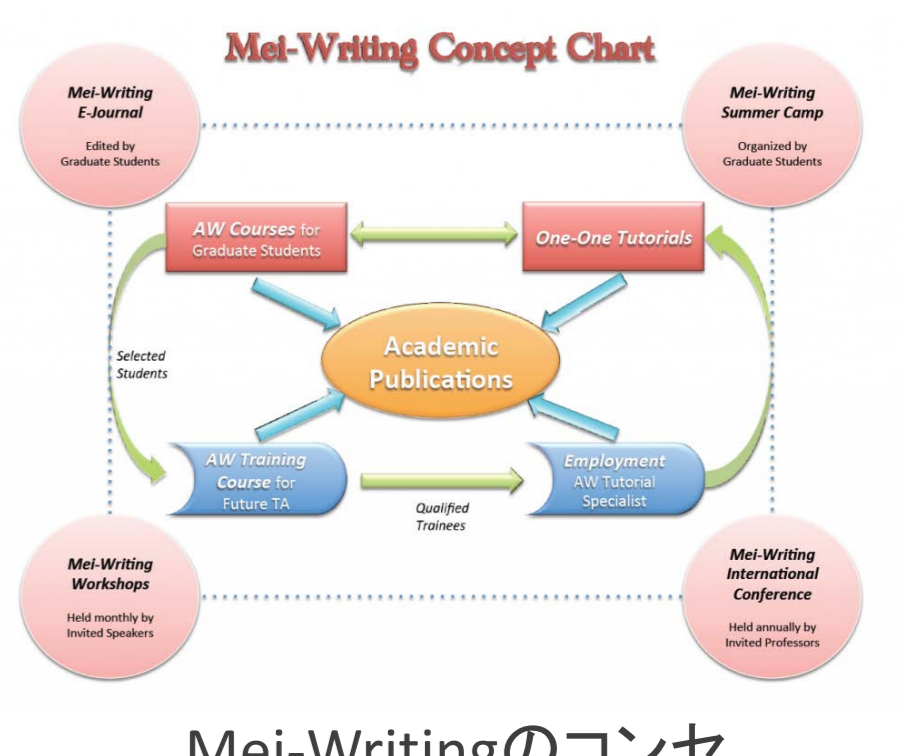


両大学連携の取組概念図

### 名古屋大学

#### Mei-Writing (2010年)

- ▶ **論文の出版を促進**することが主な目的。支援対象は**大学院生、研究員、教員**で、相談内容は**投稿論文、博士論文**等の専門性の高い学術論文。
- ▶ 外国人教員による英語、中国語、ドイツ語、フランス語でのライティング相談・授業に、ディレクターがデザインした、**ロジカル・シンキング**重視の独自のライティング教授法を使っている。
- ▶ **独自のe-journal**を運営し、各分野の外国語、日本語で作成された論文等を扱っている。



Mei-Writingのコンセプト・チャート

### 政策研究大学院大学

#### アカデミック・ライティング・センター (2005年)

- ▶ 論文指導のクオリティーを保障するために、フェロー全員は**英語アカデミック・ライティングに詳しい専門家**。
- ▶ 個人指導以外、Academic Presentation Skills, Writing for the Social Sciences等アカデミック・ライティングの授業、サマー・プログラム等も開催。
- ▶ 国内外のライティング・センター関係の会議やシンポジウムに積極的に参加・発信している。
- ▶ 「Academic Writing for Graduate Study in Public Policy」という自大学学生の**専門分野に合わせたテキストブック**を作り、無料でAWC利用者やワークショップ参加者に配布。

### 広島大学

#### ライティング・センター (2013年)

- ▶ 運営主体は**大学図書館**。**研究支援部門との連携**も注目ポイント。
- ▶ 支援対象は学生から教員まで、相談内容はレポートから学術論文まで幅広く対応。
- ▶ チューターの育成等は基本的に早稲田モデル。また、大学院のチューター養成授業もある。
- ▶ 博士後期学生の利用は他の大学と比べると非常に多い。博士論文の公表・著作権に係る説明会も開催している。
- ※ 2014年1月の時点では日本語文章のみ対応しているが、英語ライティング支援、研究者向けのライティング支援も検討中。

Writing Centers

The First-Year Writing Program

Writing Across the Curriculum Program

全米でも規模の大きいライティング・センターで、每学期約二、三千の個別セッションが行われている。学生から教職員までを対象に、Writing, Reading, Presentation等の相談・指導を行っている。パワフルな**E-tutoring**システム等にも注目。

学部1年生の必修コース。講師たちは各自で授業内容・方法をデザインし、クラスルーム授業とオンライン授業を自由に組み合わせることができる。每学期学生がインスティテュート主催のComing to Writing Conferenceに参加し、自分のライティング成果を発表できる。

論文作成等、研究者自身のためのコンサルティング（**研究支援機能**）を提供すると同時に、ワークショップ、研究会等を通じて、アサインメントの校正法、評価法、フィードバックの書き方等といった、分野を横断したライティング教授法の支援も行っている（**FD機能**）。

### ST. JOHN'S UNIVERSITY Institute for Writing Studies

2006年設立、全米でも数少ないライティングに特化したインスティテュートの一つ。「**Writing culture**」を養うことを目的に、以上3つのプログラムが展開されている。



ライティング・センターの様子

### UMASS BOSTON Graduate Writing Center

院生・教職員向けのGraduate Writing Centerは、学部生向けのWriting Centerと、他のアカデミック支援部局と多くの**資源を共有**することにより、経費の節約になる。教職員向けには、ワークショップや一般的なコンサルティング機能以外に、In-class writing（教員の要請に応じ、クラス・ビジットを通じて学生のライティングを指導する）やグループ・ワークショップを行っている。**ライティング教授法の相談・サポート等のFD支援**に力を入れている。同大学のチューター養成プログラムはCRLA (College Reading & Learning Association、米国の大学レベルでのリーディング・ライティング支援のナショナル組織)に認定され、このプログラムを修了したチューターに**CRLA International Tutor**の資格を授与できる。

全学学生や教職員を対象に、ライティングやプレゼンテーションの相談、ワークショップ、外国人向けの英語発音指導等を行っている。英語を第二言語 (ESL) とする話者向けに、ESLの専門家を2名雇用し、**外国人利用者のあらゆるニーズに答える体制**となっている。指導者全員PhD学位を持ち、教学・研究、論文出版経験のある現任教員。また、毎月外部の専門家を招待し、研究会を開催。

2014年5月以降（訪問後）、同センターはMITの「Comparative Media Studies/Writing」プログラムの下に移籍した。同センターのほか、以下のプログラムを提供することにより、ライティング支援は以前より大幅にパワーアップ:

- ▶ Graduate Program in Science Writing
- ▶ Writing Across the Curriculum
- ▶ Grants Development

MIT

Writing & Communication Center

## 英語による研究成果の国際的発信支援の在り方を考える

英語による研究成果発信の支援方策を検討することを目的に、2014年1月~4月、日米のライティング・センターについて実地調査を行った。以上9つの実例から得られたヒント:

1. 図書館、他の研究支援部門等との連携により、**research & human resources**や**research environment**の**最大限の共有**が望ましい。
2. 研究者向けのライティング支援は、**研究支援機能**に留まらず、**FD機能**も視野内。よって、英語のアカデミック・ライティングや教授法に詳しい専門家の雇用が望ましい。
3. 電子ツールの活用: 支援の際にはE-tutoringやE-Portfolio、発信の際にはE-Journal等が考えられる。
4. ライティングに留まらず、critical thinkingやwriting groups等の概念も取り入れるべき。
5. 従来のライティング・センターは、英語の添削を拒むことが多い。しかし論文投稿において、校正に対するニーズの高さも無視できないため、**日本の事情に合ったライティング支援法**を考えるべき。



大阪大学  
大型教育研究プロジェクト支援室  
姚 馨 (ヤウ シン) yao@serp.osaka-u.ac.jp

HELPING RESEARCHERS  
GET PUBLISHED